行政評価	⊞シート (事剤	8事業評価)		評価年度	28年度
事業名		資源リサイクル推進事業	担当認	R	環境課
ń	細分化した事業名				

__1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

			心地よい定住環境のあるまちづくり		
第6次長期総合計画での			自然を活かし、自然にやさしいまちづくりの推進		
	施策	資源循環型社会の構築			
関連する個別計画等	環境基本計画 一般廃棄物処理 一般廃棄物処理	基本計画 実施計画(年度ご	(ح)	根拠条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する条例等

2 計画(PLAN):事務事業の概要

- MI - W - W - W - W - W - W - W - W - W -	ガデ木ツ帆女
事業の目的	「容器包装リサイクル法に係る分別集計計画及び再商品化の促進等に関する法律」等に基づき、一般家庭から排出される資源ごみを分別収集し、資源を再原料・再商品化する。また資源ごみとして収集することで、生活系一般ごみの減量化を図る。
事業の手段	○市内にステーション 106 カ所・拠点 2 カ所を設け、業者との委託契約により実施する。 ・資源物回収委託(収集物:ダンボール、新聞、雑誌、チラシ、牛乳パック、その他雑誌、ビン、(透明・茶・その他)、飲用缶、ペットボトル、白色トレイ、ミックス紙、廃食油) ① ステーション回収 (1回/回収日は地区による)・地区管理及び指導 ② 拠点回収 2 カ所(市役所庁舎裏・龍岡公民館は毎週土曜日) (委託により搬入指導業務) 収集された資源ごみは、委託業者により再原料化され、さらに再商品化業者によって商品化される。
事業の対象	一般家庭から排出される資源ごみ。 「容器包装リサイクル法」によるもの、ビン類・缶類・ペットボトル・白色トレイ・ダンボール・牛乳パック・ 紙類など(ミックス紙) ・その他の紙整容器包装 「容器包装リサイクル法」以外のもの、新聞紙・雑誌・チラシ・廃食油

3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		25 年度	26 年度	27 年度
Α	事業費 (千円)	16,259	16,970	17,620
財源	国·県支出金			
財源内訳	その他(使用料・借入金ほか)	7,620	6,871	7,305
訳	一般財源	8,639	10,099	10,315
В	担当職員数(職員 E) (人)	0.67	0.67	0.67
С	人件費(平均人件費×E) (千円)	4,349	4,552	4,499
D	総事業費(A+C) (千円)	20,608	21,522	22,119
	<mark>主な事業費用の</mark> 主な事業費は各地区、拠点 対明	などの資源ごみ収集場所から再:	生・処理施設まで運ぶ収集運搬	業務委託料。

注〉平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した25年度(6,491円),26年度(6,794千円),27年度(6,715千円)を使用しています。

4 天心(ひ	٠,٠٩	F	C 73	1/1 (7 / 1	・ブット=事業量)		実 績 値	
	指標名				指標の算出方法	25 年度	26 年度	27 年度
	1	収集回数 11	集回数(各地区) 11 (拠点)		各地区 106 箇所×毎月 1 回拠点 毎週土曜日 2 箇所	1,272 66 25	1,272 58 26	1,272 102
活動指標	2							
	3							
妥当性 □ /					A 妥当である	ジェング ある	□С妥	当でない
上記活動指標と妥当 の説明		:妥当性	1	各地区収集については、衛生指導員・区役員を中心に分別指導や収集所の清掃など行い適正に れている。拠点収集についても委託した指導員が分別指導にあったっており適正に運営され 市内3か所で行われていた拠点回収場所の中でやまと富士見モール店前駐車場が店舗撤退に 用できなくなり、今まで第2・4土曜日に行われていた竜岡体育館前の拠点回収を毎週土曜日			型営されている。 話舗撤退に伴い使	
			2					
			3					ļ

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名				指標の算出方法		実 績 値		
		相	17示1		相様の昇山万広	25 年度	26 年度	27 年度	
		資源ごみ (うち、拠			単位:t • <i>Q</i>	924.81 (274.31)	858.75 (258.01)	788.72	
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1 2 3 4	年度目標	ス紙 レボ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	、 、 フ 又集量 ^(%) 指標は平成 30	単位:t 資源ごみ収集量/生活系ごみ収 集量+資源ごみ収集量 資源ごみ収集量/年度末人口 788,720/30,404 人	37.57 	38.55 1.57 55.31 1.42 18.60 384.82 178.44 163.11 2.45 14.48 1,160 6,211 12.2	39.29 1.81 52.44 1.37 18.31 337.31 165.27 156.02 2.57 14.33 1,200 6,222 11.3	
厄	り 果 オ			□ A 上が	っている 🗆 🛭 🛭 ほぼ上	がっている	■ C 上が	っていない	
			1	が増えておりる	量は一部の品目を除き年々減少し そちらに排出する機会が増えたと 生もあり収集量の回復を図る必要:	推測される。しか			
上記指標の妥当性と成 果の内容説明		性と成 2	2	資源ごみを除く生活系可燃・不燃ごみの収集量は年々増加傾向にある。人口減に対しごみの収算が増加しているため、資源ごみへの更なる分別の徹底や生ごみの水切り等ごみの排出方法を啓発 ていく必要がある。					
			3	一年間のごみの排出量に対し資源化した料の割合であるが年々下がっている。生活系可燃・不燃みが増加傾向にあるため更なるごみの分別が必要。					
			4	リサイクル率も下がっていることから一人当たりの資源ごみ排出量も下がっている。 リサイクル意識の向上を図る必要がある。					

事務事業総合評価	□ A 期待以上に達成	□ B 期待どおりに達成	■ C 期待以下の達成

6 改善	(ACTION):今後の事務事業の展開				
今後の事業展開		□ 拡大 (コストを集中的に投入する) ■ 一部改善 (事務的な改善を実施する) □ 全部改善 (内容・手段・コスト・実施主体等 □ 縮小 (規模・内容を縮小、又は他の事業と統合の見直しが必要) する) □ 廃止 (廃止の検討が必要)				
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか) 28 年度の改善計画(今後の事業展開説明) ・ごみ減量、リサイクル意識の向上を図るため地区説明会を開催。 ・女性団体を中心に各団体にも説明会を開催する。また、児童に対して環境学習会も今までは保育園を中心に行ってきたが幼稚園へも広げ環境学習会を開催しリサイクル意識の向上を図っていく。 ・ごみ減量アクションプラン(h27策定)の取り組み内容を基に生ごみの減量、リサイクル意識の向上、事業所へのごみの分別啓発、食品ロスに対する取り組み、ごみに関する情報の発信を行いごみの減量、削減を図っていく。					
過去 の 改善 経過	ア成12年度から缶類、ダンボール、雑紙、白色トレイ追加 平成23年度から市役所庁舎裏拠点収集を第2・4土曜日から毎週土曜日に変更 平成26年度から廃舎油、04末紙に加					
		ぶみアクションプランの策定と地域説明会の実施を行い一定の理解を得たが、資源ごみの回収は、市民と 可政そして事業者との協働と連携で成立しており、継続してリサイクル意識向上の啓発と品目の追加や収				

集方法の検討が必要である。